

協議事項13

「子どもが主役のこれからの学び」の推進に向けた公開授業の実施について
「子どもが主役のこれからの学び」の推進に向けた公開授業の実施について、協議事項
として以下のとおり提案する。

令和7年7月22日提出

神戸市教育委員会事務局
事務局長 竹森永敏

「子どもが主役のこれからの学び」の推進に向けた 公開授業の実施について

1. 趣旨・目的

本市では、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、また、一人ひとりの個性を最大限生かす、『子供が主役のこれからの学び』の実現を目指している。これまでの一斉指導型中心の授業スタイルを見直し、子供たちが学び方を自己決定・自己選択する場面を日々の授業の中で設定するなどして、子供たちが自律した学習者として深い学びを得ることができる授業改善を進めている。

このたび、「自己決定型学習」をテーマに授業改善を推進する長田中学校において公開授業を実施した。

2. 場所・日時

場所：神戸市立長田中学校

日時：7月16日（水）午前9時～11時20分（授業：午前9時30分～10時20分）

3. 参加した学校及び取材社

学 校：中学校10校、小学校8校

取材社：神戸新聞社、産経新聞社、サンテレビ

4. 公開授業の内容

（1）対象授業 中学2年生・理科（生命領域）

（2）内 容

- ・単元 動物の行動としくみ（全6時間中 本時は5時間目）

動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連付けて理解させる。

[実施した工夫]

- ・生徒のわくわく感を高め、主体性をもって学習する体験課題を用意
- ・主体性を引き出すような問いの設定
- ・生徒から提出された課題の即時フィードバック（評価）

（授業の様子）



学習課題に取り組む



廊下で教員に質問



協働学習

5. 授業後の振り返り

○ 自己決定型学習の概要と成果

- ・部活動が生徒の主体性を育ててきた活動の一つであることは間違いなく、部活動が終了しコベカツが開始する中、学校生活の中心になる授業を改善して主体性を育む必要がある。
- ・触って学べるような学習環境を整えることで学習への期待感を高め、主体性を引き出す。
- ・全授業を自己決定型とするのではなく、単元を選び、一斉授業を織り交ぜて実施する。
- ・自己決定型学習はやり直しが可能で、一斉授業ではできない物理的課題を克服できる。
- ・アンケートや保護者の声から、学習への期待感や家庭での学習意欲が向上している。

○ 質疑応答

- ・自己決定型学習の準備にかかる教員負担について
準備の負担はあり、時間の捻出は課題。コベカツが始まり、教材研究等に時間の捻出ができる環境になれば、より主体性を導く授業に対応できると考えている。
- ・自己決定型学習による生徒の変化について
授業時だけでなく学級委員会や行事等様々な場面で、積極的に参画したり、自分の意見を発言するなど主体性の向上が見受けられる。
- ・一斉授業の課題について
一斉授業には、全員が一度に機材を使えない等の物理的制約や、個々の理解度・進度にあわせることができない等の時間的制約があり、個々の生徒にあわせた学びは難しい側面がある。一斉授業と自己決定型学習の手法を適切に組み合わせる必要がある。

○ 今後の展望（教育長より）

個別最適な学び・協働的な学びに向けた取り組みを積極的に進めながら、誰一人取り残すことなく、全ての子供が主役になれるような授業を、学校の柱にしていく。

（参考）本市の授業改善の取組状況

・全市研修会の開催

「子供が主役のこれからの学び」に向けて、教育長から全小中学校管理職へ、神戸の教育ビジョンを伝えるとともに、文科省初等中等教育局田村学主任視学官より、学習指導要領に即した新たな学びの具体化にかかる講演会を実施した。

・「指導の重点」の展開

全ての教員が授業づくりを行う上で、必要となる3つのポイントを提示。

①授業の見通しを持つ、②自己決定（選択）の場面を設定、③他者参照できる

・学校訪問による授業視察、アドバイス・研修

事務局指導主事が全小中学校を訪問。学校の状況に応じた研修や実践例紹介等の支援を行う。全学校訪問済。2学期以降は学校の課題等に応じた支援を継続。

・「推進校」の公開授業の実施

小中6校を推進校に指定。推進校が周辺校の研修拠点となり、公開授業や実践事例の共有を通じて取り組みを広げ、市全体の学びの質の向上を図る。